

H20健全で豊かな森林づくりプロジェクト フォローアップ委員会 フォローアップシート

◆達成度に関するアドバイス

- ・今回確認した施業地は、既の下層植生に乏しく表層土が皆無に近い林床状態にあったため、現況では降雨後の雨水が短時間で林内から流出してしまい、通常は谷筋に水量を確認できない状況になっていると推察されます。
- ・今回の間伐実施によって林床に植生が回復してくるに従い、谷筋における流水時間の延長や涸れ沢への流水復活が期待されることから、こうした環境の変化を作業日報に記録するなど、環境改善効果の定期的な把握に努めて下さい。

◆成果に関するアドバイス

- ・ヘアピンカーブ内は、出来る限り一定した縦断勾配での登坂を基本とし、曲線進入前後の直線部分にて縦断勾配を確保して下さい。
- ・ヘアピンカーブの設置は、尾根を利用してより大きな曲線半径で設置することに心がけて下さい。
- ・盛土部や外カーブ部における路体沈下を防止するため、盛土施工時には、路体の転圧を徹底することに加えて、地山の段切り締め固めによる安定路盤の確保に努めて下さい。
- ・盛土谷側部に、ガードレール効果を期待できる立木が少ないことから、出来る限り保存することに心がけて下さい。
- ・ヘアピンカーブにおける盛土部(外周)では、土砂崩落を防止する観点から、土羽尻への丸太組の施工に取り組んで下さい。
- ・必要以上に広い伐開幅は、台風等強風により立木の風倒・内部割れの危険性を高めることから、可能な限り伐開幅の縮減に努めて下さい。
- ・土質を勘案した排水対策として、縦横断勾配を“こまめ”に変化させ、路面全体を使って適度な間隔で排水させている工夫は評価できます。
- ・外部講師を招いて積極的に道づくりに関する研修を受講した姿勢は高く評価できます。
- ・道づくりは、ルートの設定と工法の選択をセットで考え決定すべきものと認識し、今後の研修受講に際しては、自ら納得のいくまで講師に確認するよう心がけて下さい。
- ・残存木への損傷が少ない点については非常に高く評価できますが、一方で、施業後の林内には劣勢木が散見されることから、事業採算性とのバランスを考慮しつつ、優勢木を過伐しすぎるものがないよう、今以上に選木技術の向上に努めて下さい。

◆効率性に関するアドバイス

- ・該当無し(特段の言及無し)

◆妥当性に関するアドバイス

- ・安価な道づくりに囚われることなく、土砂崩落が危惧される箇所へは丸太組施工を指示するなど、必要箇所への費用投入の可否について明確な指示が出せる人材(道づくりの設計責任者)の早期養成に努めて下さい。

◆発展性に関するアドバイス

- ・事業地確保にとって有効な手段であることは理解しますが、「利益還元ありき」で森林を整備することなく、次回以降の施業実施を念頭に置いた森林づくり(主とするのは現在の利益還元か将来の収入期待か、森林所有者は道づくりの負担金を抛出可能か、その他、目標とする道づくり等々)について、関係者(地域住民、森林所有者、林業従事者等)と予め十分に協議して下さい。

◆総括に関するアドバイス

- ・道づくりは長い年月を掛けて修得していくものです。その過程において自ら道づくりの失敗を認め、そこから学ぼうとする姿勢・行動力は大いに評価します。
- ・現在の林況が目標林型までのどの段階に位置するのか、十分に検討し施業方針を決定するとともに、今回の経験を今後のプロジェクト展開に活かすことを期待します。

◆フォローアップ委員会の開催状況

平成20年12月26日

日 時： 平成20年11月28日(金)
場 所： 関市下之保地内
参加委員： 三島 喜八郎 (社)岐阜県森林組合連合会 代表理事副会長
湯浅 勲 日吉町森林組合 理事兼参事
篠田 成郎 岐阜大学総合情報メディアセンター 教授
梶山 恵司 (株)富士通総研 主任研究員
対 象： 中濃森プロJV(中濃森林組合／(株)カネキ野村木材店)



プロジェクトの概要説明



施業実施後の林分



施業後の伐開幅



「目標林型と間伐意義・目的」についてアドバイス



「連続した縦横断勾配の変化による路面全体での排水」を評価



施工後に自然沈下した盛土部



「地形図を活用した線形検討」についてアドバイス



下層植生の回復後には流水の復活が期待される涸れ沢

H21健全で豊かな森林づくりプロジェクト フォローアップ委員会

委員長 三島 喜八郎